

北海道日本海側に分布する「越前狛犬」調査概報

Survey of *Echizen* stone-caved Guardian dogs
distributed on the Japan Sea side of Hokkaido —Summary report—

石橋 孝夫*

Takao ISHIBASHI*

要 旨

2019年、北海道日本海沿岸にある「越前狛犬」の調査を実施した。調査範囲は、渡島半島の南端福島町から道央の石狩市浜益区までで、9神社11対の狛犬を調査した。その結果うち7対が「越前狛犬」だった。現時点では北海道内ではこれ以外の地域での「越前狛犬」は未確認である。これらの年代は16世紀から19世紀半ば（幕末期）までで、ほぼ6型式に分類が可能である。この中には、墨で瞳を書込んだ個体など、奉納の際に何らかの儀式をおこなったことを窺わせる個体もみられた。また「越前狛犬」ではないが、ほぼ同時代とみられる産地不明な「小型狛犬」や明治以降に製作された「笏谷石製狛犬」も確認され、合わせて記録した。

キーワード：越前狛犬、笏谷石、神殿狛犬

1. 「越前狛犬」とは何か

「越前狛犬」とは、そのほとんどが福井県福井市足羽山で産出する「笏谷石」（デイサイト質凝灰岩）で製作され、以下に示すような独特の型式をもった狛犬をいう（三井, 2012；瓜生, 2015）。年代的には16世紀初め（戦国時代）から19世紀半ば（江戸時代末）の間に製作された、この狛犬については、ほかに「白山狛犬」「三国湊狛犬」「越前禿狛犬」などの名称で呼ぶ研究者もいる。

石狩市内の2つの神社にも灰青緑色の凝灰岩製の小さな狛犬があり、後述するようにこれらも「越前狛犬」と考えられる。このうち石狩弁天社のものは以前から「笏谷石製の狛犬」として知られていた（田中, 1967）。

北海道内の「越前狛犬」分布は渡島半島から北海道中央部までの日本海側に偏在し、今のところこの地域以外ではその存在は未確認である。この分布範囲は、かつての「和人地」から「西蝦夷

地」と呼ばれた地域の一部に該当してする。本州でのこの狛犬の分布は青森県から島根県付近までの日本海沿岸に分布している、北海道における「越前狛犬」の調査はこれまで活発でなく、近年の木戸奈央子による調査があるだけで、ほとんど手つかずといっている（木戸, 2014）。

筆者はかつて「越前狛犬」のある石狩弁天社の社史編纂（田中・石橋編, 1994）に携わったことがあり、この時以来、この種の狛犬には少なからず関心をもっていた。その後、市内の北端、浜益神社の「越前狛犬」の紹介したことがある（石橋, 2006）。

昨年、「越前狛犬」のふるさと福井市を訪れる機会があり、それを契機に北海道内の「越前狛犬」調査を思い立ち実施した。調査は継続中であるが、本稿はその概要報告である。

三井の研究によると「越前狛犬」の特徴は以下の3点にまとめられる（三井, 2012）。

1. 笏谷石で作られていること。
2. 製作された年代は16世紀～19世紀中ごろ

* いしかり砂丘の風資料館（学芸協力員） 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

である。

3. 越前生まれの独特の意匠・デザインが年代により変化する。

特に3については、さらに①体軀、②髪型、③尾、④施毛、⑤角・性器、⑥台座の形状の6点の特徴で大まかな型式分類が可能だとしている（三井, 2012 ; 2015）。

本調査でもこの分類を参考に調査を実施し、型式や年代等を検討した。本稿の記載中、この基準に根拠とした場合、「三井分類」と表記する。

また瓜生（2015）の研究によると「越前狛犬」に小型のものが多く理由は、笏谷石の採掘が「尺六」（高さ3尺（90cm）、幅1尺（30cm）、厚さ6寸（18cm））という単位で行われていることと関係しているという。

図1のように「越前狛犬」は「尺六」を2分割して1対の狛犬を作り出すことが可能で、この方法によった場合、1つの像は高さ45cm、横幅30cm、厚さ18cm以下のサイズに限定される。

また笏谷石の色は採掘される坑道により異なり、褐色や緑黄色、暗紫色などがあるという（吉澤, 2016）。しかし、「越前狛犬」に使用される笏谷石は、中でも軽石礫の含有が少なく「灰青緑色」がかった石が好まれたようである。この種の石は「越前青石」や「青石」とも呼ばれ高価で取引されたようだ。

今回調査した北海道の「越前狛犬」も一部に火山礫を多量に含みやや白みがかった色調のものもみられるが、多くは「灰青緑色」で火山礫が少ないものであり、「青石」や「越前青石」と呼ばれた石材で作成された狛犬とみられる。

なお、この「灰青緑色」の原因は笏谷石に含まれる「緑泥石類」のために発色するという（福井県自然環境保全調査研究会, 1999）。

笏谷石の採掘の歴史は古く、古墳時代までさかのぼり、福井県では5世紀に笏谷石製の石棺が出土しており、この時期には石の採掘が始まっていたことがわかる。

ちなみに北海道での最古の笏谷石製品は上ノ国町国指定史跡上之国勝山館跡から出土した火鉢で

ある（松崎・塚田, 2004）。この例から15世紀には笏谷石製品が北海道南部に持ち込まれていたことがわかる。近世ではその初期には松前江差（和人地）で墓石や敷石等に笏谷石が使用されるようになるが、これ以北では笏谷石製品はほとんど「越前狛犬」のみで、墓石等に使用されるようになったのは明治以降とみられる。

石狩市内の市営親船墓地、厚田区古潭墓地などで明治期から笏谷石の墓石や石仏が増加する。このほか、筆者は数十年前、浜益区で大量の笏谷石石材（「尺六」）が集積されていたのを見たことがあり、これなども明治大正期に運ばれた石材と思われる。

三井（2009）によると、大正4-5年の加納商店（福井市）の笏谷石材取引記録に「札幌市 小樽市 釧路市 函館市 深川市 歌棄郡 浦河町 登別」の地名がみられ、この石材が全道に普及したことがうかがえる。今回の調査で、乙部町や寿

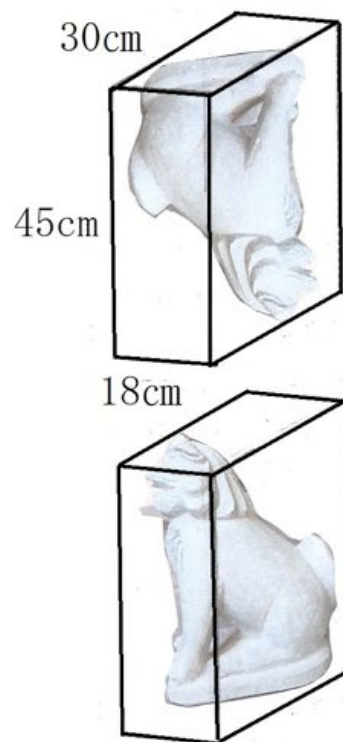


図1. 尺六から狛犬を作る。

都町で戦後、設置された神社碑（昭和37年）と記念碑（昭和30年）に笏谷石の使用例がみられ、昭和期にもこの石材の利用が続いていたことを知ることができた。なお笏谷石の採掘は1999年9月で終了している（吉澤, 2016）。

2. 「越前狛犬」調査地と調査方法

次に今回の調査について述べる。今回、「越前狛犬」調査で訪れた1市4町2村の9神社である（図2）。

また、狛犬の所在情報は主に市町村史、『北海道の狛犬』（丸瀬, 2007）や狛犬愛好家等のブログ（北海道Photo－撮り旅、神社と狛犬見て歩き、札幌時空逍遙）及び市町村学芸員からえた。調査は2019年8月から12月にかけて実施した。調査した神社のうち「越前狛犬」がある神社は6社で数は7対である。また4社で近世の産地不明の小型の狛犬と明治以降に「笏谷石」で作られた狛犬があり、これらの狛犬についても参考として

調査対象とし、それぞれ「笏谷石製狛犬」、「小型狛犬」と仮称した（表1）。

調査は写真撮影、計測、観察をおこない分類基準となる髪型、尾部の形状、台座の特徴を記録し

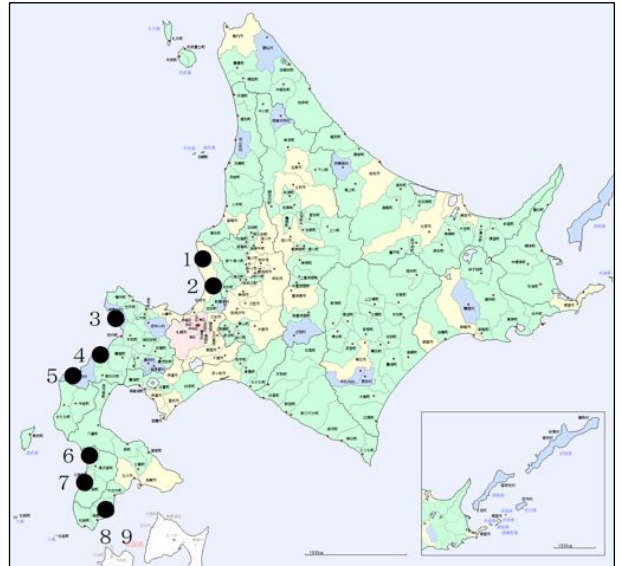


図2. 越前狛犬等調査神社位置図
（CraftMAP使用）。

表1. 越前狛犬等調査地一覧（番号は図2と共通する）。

番号	市町村	神社名	調査した狛犬数	設置場所	狛犬の種類
1	石狩市	浜益神社	1対2体	屋外	越前狛犬
2	石狩市	石狩弁天社	1対2体	社殿内	越前狛犬
3	泊村	泊稲荷神社	1対2体	屋外	笏谷石製明治以降製作
4	寿都町	稲荷神社	1対2体	屋外	笏谷石製大正3年奉納
5	島牧村	巖島神社	1対2体	屋外	越前狛犬
		同上	1対2体	屋外	小型狛犬花崗岩製？
6	乙部町	八幡神社	1対2体	屋外	小型狛犬花崗岩製？
7	上ノ国町	上ノ国八幡宮	1対2体	社殿内	越前狛犬
		同上	1対2体	社殿内	越前狛犬
8	福島町	恵比寿神社	1対2体	回廊部	越前狛犬
9	福島町	八幡神社	1対2体	回廊部	越前狛犬

た、計測位置は図3に示したとおり、狛犬の「高さ」「横幅」「厚さ」、また台座の「長さ」「幅」「厚み」を巻き尺を使用し手計りした。なお狛犬は設置場所により、風化が激しいものもあり、十分な計測ができなかった資料もある。



図3. 狛犬の主要計測部位。

3. 調査記録

以下に今回調査し「越前狛犬」「笏谷石製狛犬」「小型狛犬」について記載する。

記載は図2に示した調査地の番号順である。

1) 石狩市 浜益神社の越前狛犬(写真1)

・神社の位置と由来

所在地：石狩市浜益区浜益227番地

神社の由来：浜益神社は天保2（1831）年創立の稲荷神社と同じく天保2年の創立の弁天社が大正14（1925）年合祀されてできた神社である。（石橋1980）。狛犬は現時点では北海道で一番北にある越前狛犬である。合祀の際の詳しい記録が残っていないので、この狛犬が本来どちらの神社にあったかなどは不明である。両神社はともに初代伊達林右衛門が創建したと伝えられる。とくに弁天社は「茂生村本陣前」にあったとされる。

この神社はハママシケ場所運上屋の神社として

建てられたとされる。ハママシケ場所はニシン場として有名だが良質な秋味（塩引き）生産地としても知られている。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：白い御影石製狛犬の腹の下に入れられており、原位置は保っていないことは明らかである（写真1-1）。拝殿に向って右に阿形、左に吽形。風化が進み髪型の確認や尾の形状確認がかなり困難である。また足や台座が破損している。使用されている笏谷石の色はかなり青く、含まれる火山礫も少なく良質な笏谷石が用いられている。

②形態的特徴：阿形吽形ともに24～26cmの狛犬である。台座は阿形吽形ともに破損しているが、いずれも前側が方形で後方が半円形であることが確認できる。

風化のため表情や髪型が不鮮明であるが、阿形吽形ともに髪先端の確認でき、阿形の先端が丸まり房状になっている。これに対して吽形は直線的である。髪型の先端の形状からみて、阿形が三井分類の「房垂下型」（写真1-2）尾の型式は三井分類の「剣型」（写真1-3）と判断した。

これに対して吽形の髪型式は三井分類の「毛筋垂下型」（写真1-5）と考えられる。尾は剥がれ痕跡的であるが「蓮華花弁型」（写真1-6）と判断される。このように1対の狛犬中で型式が異なっており、その点で特異である。また台座は破損しているが阿形吽形とも前側が方形で後方が半円形で、三井分類の「前方後円型」である。

③計測値

阿形：高さ24cm 横幅20cm 厚さ11cm

台座：長さ17cm 幅9cm 厚さ2cm

吽形：高さ26cm 横幅20cm 厚さ10cm

台座：長さ幅とも破損により計測不能 厚さ2cm

④総合所見：すでに述べたように、阿形と吽形はそれぞれ型式が異なる狛犬とみられる。その原因としてかつて型式の異なる2対の狛犬が存在していたが、それが社殿移転や合祀の際、何らかの理由により1対にされた可能性がある。恐らく像の

風化や破損などの理由で傷んだ像は廃棄し、傷んでいない阿形と吽形を組み合わせ1対にしたのではないだろうか。髪型・尾の型式からみて阿形は16世紀末～17世半、吽形は17世紀半～18世紀の「越前狛犬」と考えられる。

2) 石狩市 石狩弁天社の「越前狛犬」

(写真2)

・神社の位置と由来

所在地：石狩市弁天町18番地

神社の由来：元禄7（1694）年石狩川秋味上乘役松前藩士山下半右衛門の願いにより松前神明社神主白鳥若宮太夫がご神体を勧請し創立された神社である。祭神は厳島大明神で合殿妙亀法鯨大明神、稲荷大明神のほか毘沙門天、大黒尊天などが祀られている。

明治7（1874）年まで現在地より北東側の石狩川河口近くにあり、現在合殿となっている神々もかつてはそれぞれ独立した社があったようだが、遷座を契機に一つの社殿におさめられ現在にいたっている（田中・石橋, 1994）。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：社殿内の弁財天の前の神鏡の下段に向かいあわせて置かれている。向かって右に吽形、左に阿形の形で置かれている。像の状態は背面と尾の先端に若干、風化が認められるが、そのほかは劣化が認められず良好な状態である（写真2-2）。

②形態的特徴：眉毛が太く中央に粒状の装飾がみられる。阿形吽形ともに体が少し内側に傾くよう作られている（写真2-3, 6）。髭の表現があり、両前足上部に2本の波線による「施毛」がある（写真2-6）。両像のうち吽形の胸が平らに削られ正面から見るとU字型の平坦面が作り出されている（写真2-1）。阿形吽形双方の胸の部分に左から右に墨書がある（写真2-11）。このほかに目、歯、髭などに墨がついており、墨書と同時、おそらく奉納時に書き込まれた可能性が高い（写真

2-1, 10）。

このような墨による瞳などの描き入れは、何らかの儀式に伴っておこなわれたものと考えられる。このような例は後述する上ノ国町上ノ國八幡宮の狛犬にも認められる。

墨書の内容は阿形吽形ともに「庄内 酒田 柏屋 久左衛門 舟 中 上乃り 九兵エ 天党船」である（写真2-11）。この記述から「柏屋久左衛門」配下の「九兵エ」が「天党船」で石狩にきて奉納したことがわかる。「庄内 酒田」は寄港した港である。「柏屋久左衛門」は近江商人の又十藤野の関係者と思われる。石狩弁天社には文化11（1814）年の年号のある鰐口奉納者の1人に「柏屋善三郎」の名がある。この柏屋は石狩場所請負人の1人であり、柏屋と石狩弁天社の関係が以前からあったとみられる。

また石塚猛俊（1988）によると「天党船（てんとうぶね）」とは「天当船、天道船、伝道船」などとも書き、「近世から近代にかけて日本各地で最も広く使用されていた和船。一中略一大きさは地方によって異なり、富山県では長さ9尋（約13.6m）、肩幅9尺（約7m）、5挺櫂、7人乗りにものであった」という。東北地方ではさらに大型の天党船があったともいうが、この船は日本海周りの船で、5挺櫂、7人乗り程度の小型船と考えて大過ないと思う。赤羽正春（1998）によると富山県以北に広く分布する船で明治以降の「カワサキ船」につながる船でもあるという。カワサキ船では新潟からは松前まで10日間ほどの航海で到達したという。当時の船について千石船など大型船がイメージされがちであるが、天党船のような100石積み程度の小型船も頻繁に入津したものである。この墨書から船の大きさが推定でき寄港地なども記され一種の航海記録となっている点でも重要である。

髪型は阿吽形ともに深い毛筋彫りで両頬の部分で大きく髪がカールする（写真2-4, 7）。三井分類の「巻毛・毛筋垂下型」である。尾の型式：阿吽形とも三井分類の「蓮華花卉型」（写真2-5）である。台座は前が四角で後方が半円形で前方後円

型である（写真2-9）。

③計測値

阿形：高さ24.6cm 横幅25cm 厚さ11.5cm

台座：長さ17.5cm 幅10cm 厚さ2.5cm

吽形：高さ25.1cm 横幅20.4cm 厚さ12.5cm

台座：長さ17.5cm 幅10.1 厚さ2.5cm

④総合所見：阿形と吽形はほぼ同じ形であるが吽形の胸の削り方だけが異なる（写真2-1）。これは雌雄の違いを示すなどの表現の可能性もあるが詳細は不明である。墨書や墨による腫などの描き入れがあり、奉納に際して何らかの儀式がおこなわれた可能性がありとくに貴重な史料である。奉納年は不明であるが髪型は三井分類の「巻毛・毛筋垂下型」・尾の型式は「蓮華花卉型」であり、17世紀半～18世紀かけて製作された「越前狛犬」と考えられる。

3) 泊村 泊稲荷神社の「笏谷石製狛犬」

（写真3）

・神社の位置と由来

所在地：泊村大字泊村82番地

神社の由来：古宇場所請負人田付新助（福島屋）が、家業の繁栄と場所の静謐を祈り、近江国田付家の家宝である神璽をトマリに祀ったのが創祀と伝えられる。更に享和元（1801）年京都伏見稲荷神社の神霊を祭神として祀り、弘化元（1844）年讃岐金比羅神社の分霊および播磨国海神社大海津見神の分霊を合祀した。文久2（1862）年場所請負人田付新兵衛・支配人増川市郎兵衛・浜名主和田屋力蔵などが出羽国塩越に注文起工し、彫刻を施した樗（けやき）材を弁財船で運び、釘を使用しない総樗造り楔止め組立の本殿を建築した（北海道神社庁HP）。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：狛犬は泊稲荷神社の境内であるが、社殿前に置かれているわけではなく、鳥居をくぐって参道右にある忠魂碑の基壇の下に置かれ、あたかも忠魂碑に付属する狛犬のような配置

となっている。碑に向かって左が阿形で右が吽形である。境内には狛犬のほかいくつかの石碑などがみられることから、別の神社にあった狛犬が移動してきた可能性がある。使用されている石には火山礫を多量に含む。風化によりそれが脱落した跡が無数の小穴となっている（写真3-1, 4）。当初は「笏谷石」ではないように思われたが、後述する島牧村の「越前狛犬」に使用されている笏谷石に類似した質の石が使用されていることや色調から「笏谷石」と判断した。

②形態的特徴：像全体の高さに比較して尾が大きく高い。尾の先端がほとんど後ろ髪に接している（写真3-2）。髪は細い沈線で彫られていて、頭部側面に大きな耳がつけられている（写真3-1）。また尾全体として三井分類の「蓮華花卉型」のような形であるが、その内部が5つに区画されており、内部に細い沈線が施されている。一見「笹の葉」のような形にみえる文様となっている（写真3-1, 3, 5）。このような構成の尾は三井分類にみられない。また台座の形状が長方形である。

③計測値

阿形：高さ45cm 横幅27cm 厚さ15cm

台座：長さ27cm 幅15cm 厚さ4cm, 長方形

吽形：高さ49cm 横幅27cm 厚さ15cm

台座：長さ27cm 幅15cm 厚さ8cm, 長方形

④総合所見：火山礫を多量に含む笏谷石を使用している。髪型は「越前狛犬」に類似する点もあるが、大きな耳が特徴である。狛犬の高さは2像合わせると90cmを超える。

瓜生（2015）によると笏谷石を使った狛犬は昭和期まで製作されていたという。その形状については不明であるが、使用石材が「笏谷石」と考えられること、耳の表現や台座形状が長方形であることから「越前狛犬」ではなく、それ以降に作られた「笏谷石製狛犬」と考えた。年代についてこの時期の類例が不明であるが、明治から大正期と想定しておきたい。

4) 寿都町 稲荷神社の「笏谷石製狛犬」

(写真4)

・神社の位置と由来

所在地：寿都町字磯谷町鮫取潤21番地

神社の由来：創立年代未詳。天保年間（1830～1843）に磯谷場所請負人の西川準兵が建立したことに始まる。明治11年11月に無格社に列せられ、同26年7月26日に改築の許可を得て、同年9月20日に落成、届けを出した（北海道神社庁HP）。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：年代が新しく「越前狛犬」ではないが、その系譜をひく狛犬で一つの高さが70cmを超え、調査した中では最大で大型の狛犬である。

社殿前の左右に置かれる参道狛犬である。社殿に向かって右に阿形、左に吽形に配置されている。顔がやや斜めになるよう作られている（写真4-1）。狛犬と一体の台座のほかに、2段の台座がある。上段が笏谷石で下段はこの付近の海岸にあるハイアロクラストaitを加工し製作したとみられる（写真4-5）。阿形の2段目の台座側面に「奉納」、正面に「大正三年 三月酒井嘉兵衛」と刻まれている（写真4-1, 2）。吽形の方にも側面に「奉納」、正面に「酒井嘉兵衛」と刻まれている。また、拝殿入り口には笏谷石の敷石とみられる長方形の石が埋まっており、かつては他にも笏谷製品があった可能性がある。

②形態的特徴：像の高さが高く「尺六」でなく特注の石材で造られた狛犬とみられる。像の高さに匹敵するような高く（68cm）大な尾をもつ（写真4-4）。また全身に獅子毛に似た浮彫などの細かい装飾がみられる（写真4-6）。頭の両側に大きな耳がある（写真4-6）。この耳についてはすでに述べたように、泊村の泊稲荷神社の狛犬に類似した型式である。

③計測値

阿形：高さ76cm 横幅47cm 厚さ29cm
(尾の高さ70cm)

台座1：長さ49cm 幅30cm 厚さ11cm

台座2：長さ51cm 幅31cm 厚さ13cm
(2段目の台座)

吽形：高さ76cm 横幅46cm 厚さ29cm
(尾の高さ68cm)

台座1：長さ47cm 幅31cm 厚さ29cm

台座2：長さ66cm 幅21cm 厚さ21cm
(2段目の台座)

④総合所見：奉納年から大正期の狛犬であり、「越前狛犬」ではないが、それ以降も「笏谷石」使った狛犬製作継続したことを示す資料である。近世以降の笏谷石製の狛犬の型式がどのような変遷をたどるのか把握していないが、今後この種の狛犬がこの地域あるいは北海道内にどのような分布を示すのか知る上で興味深い資料であり、注目される。

5) 島牧村 厳島神社の「越前狛犬」と

「小型狛犬」(写真5)

・神社の位置と由来

所在地：島牧村字泊

神社の由来：創立年代未詳。享和3（1803）年7月に改修の銘が残っており、天保8（1837）年にも再度改修されている。また神社には辨財天の木像が祀られており銘に「西蝦夷島小牧江初而奉納願主某享和三癸亥年七月吉日修復、依而開眼浅間神社神主木村兵部源勝政謹而之を修む。元治甲子曆正月修復願主松前村山伝兵衛直之代等」とある。明治9年郷社に列せられる（北海道神社庁HP）。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：この神社では大小2対の狛犬が拝殿前の左右にコンクリートの台に乗せられていた。このうち大型の狛犬の阿吽像は向かい合わせでなく、それぞれ海を見るように配置されている（写真5-3）。拝殿に向かって右に阿形、左に吽形が置かれている。

大型の狛犬は先に述べた泊村の泊稲荷神社の「笏谷石製狛犬」と石の質感が良く似ており、含

まれていた火山礫が風化により脱落し、無数の穴が開いている。海に向いた顔などは激しく風化し、かろうじて阿吽が判断できる状態で表情などの観察は難しい（写真5-1）。これに対し反対側の髪型や尾の形状は、全面より状態が良く、かなり良く観察できる（写真5-3）。髪の型式や尾の形状から「越前狛犬」と判断した（写真5-3）。

大型の狛犬と並んで風化した花崗岩のような白っぽく、ザラザラした手触りの石製小型狛犬が石製ご神燈の擬宝珠とともにコンクリート製台座に載せられている（写真5-5）。

②形態的特徴：像の高さがいずれも50cmを超え「尺六」でなく特注の石材から製作したと考えられる。髪型は三井分類の「毛筋垂下型」であるが掘り込みは浅く線状である。背にかかる髪の先端は折れ線グラフ状になっている（写真5-2）。風化によりはつきりしないが頭頂部は房状の巻毛の集合の可能性がある。尾は三井分類の「蓮華花卉型」に類似しているが、阿形吽形ともに台座に近い部分に円形の大きな穴がみられる（写真5-4）。原形は不明だが阿吽像ともにあることから、円形の装飾が脱落したと考えられる。

おそらく三井分類でいう渦巻き状の「蝸牛型」と呼ばれる尾のような装飾があった可能性が高いが詳細は不明である。台座形状は「前方後円型」である。

③計測値

阿形：高さ51cm 横幅36cm 厚さ24cm

台座：長さ34cm 幅19cm 厚さ3cm

吽形：高さ56cm 横幅39cm 厚さ24cm

台座：長さ35cm 幅18cm 厚さ3cm

④総合所見：高さ45cmを超える特注の石材から製作された狛犬である。したがって奉納者あるいは発注者が「尺六」の規制を超える石材を入手する力があったことが考えられる。髪型は三井分類の「毛筋・垂下型」の範疇に入るが、尾の形状は三井分類の「蓮華花卉型」の下部に渦巻き状の装飾がついた「蝸牛型」の一種の可能性があり、分類はなお検討を要するが年代については一応17世紀～18世紀ものとしておきたい。

・小型狛犬の概要

①設置位置と状態：上記の「越前狛犬」に並んで花崗岩様の白っぽくザラザラした手触りの石で作られた小型狛犬がおかれている（写真5-3）。風化が進み、阿吽の区別もつかない。台座は前足側が半ばから折れて欠損している（写真5-5, 7, 8）。

②形態的特徴：風化により髪型は不明である。台座は狛犬臀部と一体化しているが半円形であることから台座は「前方後円型」に類似している（写真5-7）。なお、大きさからみてかつては社殿内にあった神殿狛犬の可能性はある。

③計測値:

阿形：高さ34cm 横幅22cm 厚さ12cm

台座：長さ17cm 幅12cm 厚さ未計測

吽形：高さ34cm 横幅22cm 厚さ12cm

台座：長さ17cm 幅12cm 厚さ未計測

④総合所見：狛犬の姿勢から、後述する乙部町八幡神社の狛犬と同形で、「越前狛犬」とも共通している。この点から狛犬の年代は近世期と思われる。

6) 乙部町 八幡神社の「小型狛犬」（写真6）

・神社の位置と由来

所在地：乙部町栄浜

神社の由来：創立年代は元和年間（1615～1624）、文化9（1812）年再建された。明治41（1908）年稲荷神社を合祀する。なお稲荷神社は寛永5（1628）年創祀（北海道神社庁HP）。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：前項島牧村厳島神社の小型狛犬の項で述べたが、これとよく似た形状の狛犬であり「越前狛犬」ではないことは明らかである。参道に置かれているが破損したご神燈の笠石を台座にしており、明治41年合祀された稲荷神社の神殿狛犬だった可能性がある。石材は風化した花崗岩のようなザラザラした手触りの石である（写真6-3）。

②形態的特徴：風化が激しく阿吽の別も明瞭でなく、両方とも吽形にみえる。髪型はわずかに肩にかかるほどの長さで毛先が房状になっている状態がわずかに観察できる。尾はほとんどみられない（写真6-1, 3, 7）。

像の側面観は胸を突き出し、臀部が台座からかなりはみ出す形で「越前狛犬」でないものの三井分類では「（3B）鋭角三角形型」に近い形である（写真6-2, 6）。尾はほとんどなく、特徴的な形状をしている。島牧村厳島神社の小型狛犬も台座から臀部がはみ出すが、これほど極端ではない。台座形状は前方が方形で後方が半円形で「前方後円型」で「越前狛犬」と同じである（写真6-4）。

③計測値

左の狛犬：高さ36cm 横幅28cm 厚さ14cm

台座：長さ20cm 幅14cm 厚さ3cm

右の狛犬：高さ36cm 横幅28cm 厚さ14cm

台座：長さ20cm 幅14cm 厚さ4.5cm

④総合所見：風化のため形状が定かでない点が多いが、石質は明らかに笏谷石でない。小型であり全体形状は「越前狛犬」に類似している。台座の形状も前が方形で後ろが半円形ぎみで「前方後円型」に似るが、台座は狛犬の臀部と一体化しており特異な形状を示している（写真6-6）。像の側面観（体軀）は三井分類の「（3B）鋭角三角型」に近く、「越前狛犬」であれば17世紀後半から18世紀に主流となる形だと考えられる。石質は風化が進んだ花崗岩のような感じである。強いていえば「佐渡御影」などと呼ばれる石に似た感じがある。おそらく江戸時代の狛犬とみられる。今後、製作地や年代を確定する必要がある。

7) 上ノ国町 上ノ国八幡宮の「越前狛犬」 (写真7)

・神社の位置と由来

所在地：上ノ国町字上ノ国町238番地

神社の由来：創建は、文明5（1473）年松前藩始祖「武田信廣」公が勝山館（現国指定史跡「勝山

館」跡）に守護神として創祀、館神（館神八幡宮）と称した。永正11（1514）年2代光廣が大館（松前）に本拠を移し5代慶廣の時豊臣秀吉・徳川家康によって蝦夷島主と認められ、安東氏より独立するに至り、姓を松前と改め後に江戸幕府下の1藩として位置した。上ノ国は、藩祖草創の地として藩主の直領とされ当社は上ノ国三社（現・夷王山神社、砂館神社と併せて上ノ国三社という）の1社で、松前藩の崇敬殊に厚く、他2社と共に歴代藩主は1代に1度必ず参詣し、毎年正月には藩主名代が代参する慣しであった。現本殿は元禄12（1699）年建立の一間社流れ造り（一部彩色）の本殿を明治時代に勝山館より遷し伝説「大蔵鯨」の若宮社他を合祀している（北海道神社庁HP）。

・狛犬の概要

①設置位置と状態：狛犬は2対4体あり、いずれも「越前狛犬」である。2対とも拝殿前に置かれており、神殿狛犬である。通常非公開である。2対の狛犬は『上ノ国町史』（松崎, 1962）と『越前笏谷石第三編』（三井, 2009）で紹介されている。神殿狛犬ということもあり、風化もなく良好な状態である。以下「越前狛犬A」、「越前狛犬B」として記載する。

・越前狛犬A

②形態的特徴：石狩市浜益神社の「越前狛犬」のうち吽形と同石狩弁天社と同型式であるが、これらに比べ高さが3cmほど高い。また、石狩弁天社の狛犬の特徴で記載した胸の面取りは阿形吽形両像に認められる（写真7-2）。

吽形の左足から台座にかけて欠損している。阿形吽形ともに体及び顔を少し内側に傾けた形となっている。これも石狩弁天社の狛犬と同様である（写真7-1）。

阿像の口、目が黒くなっており、墨で瞳を書き入れた痕跡とみられる（写真7-2）。石狩弁天社の例から神社に狛犬を奉納する際の儀礼による可能性が高い。吽形も同様に墨による瞳などの書入れがあったと思われるが、現在でははっきり確認で

きない。このような例が本州側にもあるのか調べる必要がある。

髪型は耳でカールする（写真7-3）。尾は石狩弁天社と同系であるが、尾の大きさは石狩弁天社に比較して大形である（写真7-4）。台座形状は前が方形で後部が半円形で三井分類の「前方後円型」である。

阿形呷形とも胸と両足側面に刻字がみられる（写真7-2, 5）。胸には「奉寄進」。右足側面、左足側面に「越前新保」と「三上万■■■」と刻まれている。「越前新保」とは現福井県三国町にある地名で九頭竜川河口にあり、笏谷石の積み出された近世の港で三上何某はこの商人とみられ、いわゆる北前船主の可能性があり、現在調査中である。

③計測値

阿形：高さ27cm 横幅20cm 厚さ15cm

台座：未計測 前方後円型

呷形：高さ28cm 横幅19cm 厚さ16cm

（右前足と台座一部欠損あり）

台座：高さ未計測 厚さ1.5cm 前方後円型

④総合所見：髪型は三井分類の「巻毛・毛筋垂下型」、尾の型式は「蓮花花卉型」である（図は写真7-3, 4）。髪型は髪束の束や毛先がやや丸みを帯び、尾も非常に大きい。墨により瞳などを描いた痕跡があり、口にも墨の痕跡がうかがわれる。なお狛犬Bも同様に墨で瞳が描かれている。17世紀半～18世紀の「越前狛犬」と考えられる。

・越前狛犬B

①形態体的特徴：前記の「越前狛犬A」とは明らかに別型式である（写真7-6）。頭部に最大幅があり、房状に編んだ髪型（自由型）が特徴である（写真7-7, 8）。尾部はかなり特異で基部が剣型のように細いが、先端が火炎状で3つの部分に分かれている。左右に渦巻き状の装飾を施す（写真7-10）。

狛犬Aに比べ石の色はやや青白い。両前肢付根に羽根状の旋毛がある（写真7-9）。前足後足ともに爪の表現が顕著である。台座は前後とも丸みを

帯び楕円形である。この狛犬にも墨で目が描かれ痕跡が残る。とくに呷像の右目は顕著である。阿呷ともわずかに体が内側に傾くよう作られている。

③計測値

阿像：高さ38cm 横幅26cm 厚さ15cm（頭部幅）

台座：長さ22cm 幅13cm 厚さ2cm

呷像：高さ37cm 横幅25cm 厚さ14cm（頭部幅）

台座：長さ23cm 幅12cm 厚さ2cm

④総合所見：尾の形状と髪型がとくに目を引く。とくに尾の形状は根元が剣状で先端に向かって火炎が燃え上がるようで装飾的であるが、三井分類ではこのような例は掲載されていないようである。また髪型は房状に編まれたような形で、表情も特徴的である。このような特徴から三井分類の「自由型」の髪型と考えられ、この狛犬は19世紀半、幕末期の狛犬と考えられる。

8) 福島町 恵比須神社の「越前狛犬」

（写真8）

・神社の位置と由来

所在地：福島町宮歌

神社の由来：由来は不詳であるが、地元では「恵比須神社」と呼ばれているところから『福島町史第2巻』（福島町, 1995）にある宝暦10（1760）年村中建立の神社と思われる。場所は次に述べる八幡神社の社地内で本殿の背後にある。配置からみて八幡神社の境内社のような扱いで存続してきたと考えられる。

・狛犬の概要

①設置位置・状態：流造りの社殿の回廊部分に右に呷形、左に阿形が置かれている。狛犬は対向しておらず海を向くように配置されている。置かれた位置には屋根がかかっているが、海に向いている前面はかなり風化しており、観察がむづかしい。

②形態的特徴：阿形は顔を上向きにしている（写

真8-1) . 髪型は先端が巻き毛で2段から3段の房状となっており、三井分類の「多段房型」に類似する。呷形の方が良好に保たれている(写真8-6) . 尾の形は三井分類では「3条(房)のその他A型」に近い。この形の尾は中央が蓮華花卉のように直立し、左右に蕨手状の装飾がつくものである。

この神社の狛犬も風化が激しいがこれと同様な型式の尾と考えられる(写真8-3, 7) .

また、阿形の股間に小さな突起の痕跡があり、性器の表現の可能性がある(写真8-4) .

台座の形状は前側が方形で後ろが半円形であり、「前方後円型」である(写真8-7) .

③計測値

阿像：高さ34.5cm 横幅未計測 厚さ16.5cm

台座：長さ25cm 幅14.5cm 厚さ3cm

呷像：高さ34.5cm 横幅未計測 厚さ17cm

台座：長さ25cm 幅14cm 厚さ3cm

④総合所見：風化により十分観察できないが、髪型は三井分類の「多段房巻」、尾も「3条その他型A」の「越前狛犬」に類似している。この観察が正しいとすれば年代は16世紀～17世紀と思われる。また股間の小さな突起は「性器」表現の可能性があるが、さらに詳しい観察や類例調査が必要である。

9) 福島町 八幡神社の「越前狛犬」(写真9)

・神社の位置と由来

所在地：福島町宮歌

神社の由来：明暦元(1655)年知行主幕府旗本松前八左衛門泰広が、知行地の平安を祈り建立し、正八幡宮ともいわれ、八左衛門使用の弓矢、連歌、鬺(くじ)箱等を献納した。草創時の棟札が現在も残されており、当初の別当は泉蔵坊で、のち藤枝家が代々これを勤めた。その後元禄8(1695)年、延享4(1747)年、安永4(1775)年と新社殿を造立している。この八幡社には近世初頭から明治にいたる宮歌村文書87点が保存されていて、北海道内では1村古文書として

貴重なものであると、評価されている(福島町、1995) .

・狛犬の概要

①設置位置・状態：前記恵比須神社と同じく、流造の回廊部分の左右に置かれ、向かい合わせでなく顔を海に向けて置かれている。向かって右に阿形、左が呷形となっており恵比須社とは配置が逆になっている。阿形呷形とも顔面、足、台座が破損しており、コンクリートで修復した跡がある。しかし、再び破損して像の下にコンクリートが散乱しており状態は非常に悪い(写真9-5) .

②形態的特徴：髪型は三井分類の「毛筋垂下型」である(写真9-1) . 尾の型式は三井分類の「先端内巻型B」である(写真9-2, 3) . また阿形呷形像ともに頭頂部に楕円形の溝で区画された楕円形の高まりがある。髪装飾ともみられるが、低いながら突起と考えた。おそらくこの突起は、「角」の表現あるいは名残と考えられる(写真9-4, 7) .

著者は「角」もつ狛犬を見たことはなく、このよう低い「角」があるかどうか分からない。今後、「越前狛犬」に限らずこのような例の有無を調査したい。

なお、先に述べたように狛犬は風化により、破損しコンクリートで数度の補修が行われている。とくに台座部分や前肢は大幅で、この部分の計測値は参考値である。台座の形状は三井分類の「前方後円型」である(写真9-6) .

③計測値

阿形：高さ42cm 横幅35cm 厚さ15cm

台座：長さ40cm 幅22cm 厚さ4cm

呷形：高さ41cm 横幅35cm 厚さ16cm

台座：長さ40cm 幅29cm 厚さ4cm

④総合所見：髪型は三井分類の「毛筋垂下型」、尾の型式は「先端内巻型B」であることから、16世紀～17世紀初めの「越前狛犬」と考えられる。

この狛犬には「角」の痕跡とみられる低い突起がみられた。「角」とすれば阿呷両形にあるのは珍しい例と思われる。例えば明治32年の「神職宝

鑑」（半井，1899）によると呷形にだけあり，阿形にはみられない。

4. まとめ

以上，北海道日本海側の神社に奉納されている「越前狍犬」及び関連する狍犬の調査をおこないその概要を述べた。今回の調査では，道南部福島町から道央の石狩市浜益区まで9神社で7対の「越前狍犬」と2対の近世「小型狍犬」と2対の「笏谷石製狍犬」が確認できた。

「越前狍犬」については三井紀生（2015）の分類を参考すると16世紀から19世紀半ばまでのものと推定され，ほぼ6型式の狍犬が認められた。

この中には，奉納者が記入されたものや墨で眼や髭を画き込んだ個体も認められ奉納儀式をうかがわせる例も確認できた。このほか幕末以降に製作されたと考えられる「笏谷石製狍犬」と製作地不明な近世の「小型狍犬」も確認された。

また石狩弁天社や上ノ国八幡宮の例でみたような墨による目腫などの描き入れが具体的にどのような場合行われたかなど民俗学的視点での調査も必要である。さらに乙部町や島牧村などでみられた「小型狍犬」が何時，どこで製作されたかなど調査する必要がある。

「越前狍犬」が比較的小型であることから，未確認の狍犬がまだ社殿内に存在する可能性がありさらに所在確認調査を進める必要がある。

付記：今回調査した「越前狍犬」は凝灰岩製で風化しやすくすでに脆くなっているものが多い。見学の際などは誤って破損しないように十分注意する必要がある。また上ノ国八幡宮の越前狍犬については通常非公開であることと申し添えます。

謝辞：今回の越前狍犬等の調査にあたり，下記の方々からご教示・ご指導を賜った。記して感謝の意を表します。福井県立歴史博物館，福井市立図書館，上ノ国八幡宮 宮司松崎辰彦，上ノ国町学芸員塚田直哉，福島町学芸員 鈴木志穂。（敬称略）

引用文献

- 赤羽正春，1998. 日本海漁業と漁船の系譜，慶友社。
福井県自然環境保全調査研究会監修，1999. 福井県のすぐれた自然 地形・地質編，福井県県民生活部自然保護課。
福島町，1995. 福島町史第2巻，福島町。
北海道神社庁，web site. 北海道の神社 後志支部，檜山支部，<https://hokkaidojinjacho.jp/jinja/>（2019年12月閲覧）。
石橋源，1980. 浜益村史，浜益村。
石橋孝夫，2006. 石狩弁天社の狍犬，Estuary（いしかり砂丘の風資料館だより），24：1。
石塚猛俊，1988. てんとうぶね 天当船，世界大百科事典19，平凡社。
木戸奈央子，2014. 石狩弁天社の笏谷石製狍犬，いしかり砂丘風資料館紀要，4：1-6。
丸瀬正弘，2007. ほっかいどうの狍犬，中西出版。
松崎岩穂，1962. 上ノ国村史，上ノ国町。
松崎水穂・塚田直哉，2004. 史跡上之國勝山館跡XXV 平成15年度発掘調査環境整備事業概要，75-85。
三井紀生，2009. 越前笏谷石 第3編 よみがえる歴史と人間像，福井新聞社。
三井紀生，2012. 中・近世における越前狍犬の特徴と地方進出について，若悦郷土研究，57(1)：1-25。
三井紀生，2015. 越前狍犬の意匠・造形の変遷について，日引（石造物研究会会誌），14：9-25。
半井真澄，1899. 神職宝鑑，国立国会図書館デジタルライブラリー。
田中實，1967. 石狩弁天社史 石狩町郷土史料第二輯，石狩町教育委員会・石狩町郷土研究会。
田中實・石橋孝夫編，1994. 石狩辨天社創建三百年記念誌 石狩辨天社史，石狩辨天社創建三百年記念誌実行委員会。
瓜生由紀，2015. 「越前狍犬」（笏谷石製の狍犬）の分析 福井市美山地区の調査結果を中心として，福井県立歴史博物館紀要，11：1-16。
吉澤康暢，2016. 笏谷石と緑色凝灰岩類の化学組成，福井市自然史博物館研究報告，63：17-26。
その他ホームページ等：
coachman，web site. 北海道Photo－撮り旅，<https://photo2519.exblog.jp/>（2019年12月閲覧）。

keystonesapporo, web site. 札幌時空逍遥.
keystonesapporo.blog.fc2.com/blog-
entry-459.html (2019年12月閲覧) .
作者未表記, web site. 神社と狛犬見て歩き. [https://
blog.goo.ne.jp/goo20052010](https://blog.goo.ne.jp/goo20052010) (2019年12月閱
覧) .

表 2 a. 越前狛犬等の集計表（1）.

（H：高さ，W：横幅，T：厚さ， 台座 L：長さ，W：幅，T：厚さ， *：欠測）

1) 石狩市 浜益神社の「越前狛犬」

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H24×W20×T11		吽 形	H26×W20×T10	
台 座	L17×W9×T2		台 座	L*×W*×T2	*破損
髪の様式	房垂下型		髪の様式	毛筋垂下型	
尾の様式	剣 型		尾の様式	蓮華花卉型	
年代推定	16世紀末～17世紀半		年代推定	17世紀半～18世紀	

2) 石狩市 石狩弁天社の「越前狛犬」

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H24.6×W25×T11.5		吽 形	H25.1×W20.4×T12.5	
台 座	L17.5×W10×T2.5		台 座	L17.5×W10.1×T2.5	
髪の様式	巻毛・毛筋垂下型		髪の様式	巻毛・毛筋垂下型	
尾の様式	蓮華花卉型		尾の様式	蓮華花卉型	
年代推定	17世紀半～18世紀		年代推定	17世紀半～18世紀	

3) 泊村 泊稲荷神社の「笏谷石製狛犬」

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H45×W27×T15		吽 形	H49×W27×T15	
台 座	L27×W15×T4		台 座	L27×W15×T8	
髪の様式	型式不明 耳がある		髪の様式	型式不明 耳がある	
尾の様式	蓮華花卉型類似 笹葉状		尾の様式	蓮華花卉型類似 笹葉状	
年代推定	明治・大正期か？		年代推定	明治・大正期か？	

表2b. 越前狛犬等の集計表(2).

(H:高さ, W:横幅, T:厚さ, 台座L:長さ, W:幅, T:厚さ, *:欠測)

4) 寿都町 稲荷神社の「笏谷石製狛犬」

阿 形			咩 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H76×T47×W29		咩形全体	H76×T46×W29	
台 座	L49×W30×T11		台 座	L47×W31×T29	
髪の様式	型式不明 耳がある		髪の様式	型式不明 耳がある	
尾の様式	型式不明 大型		尾の形式	型式不明 大型	
年 代	大正3年(酒井嘉兵衛奉納)		年 代	大正3年(酒井嘉兵衛奉納)	

5) 島牧村 蔵島神社の「越前狛犬」と「小型狛犬」

「越 前 狛 犬」

阿 形			咩 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H51×W36×T24		咩 形	H56×W39×T24	
台 座	L34×W19×T3	欠 損	台 座	L35×W18×T3	
髪の様式	毛筋垂下型?		髪の様式	毛筋垂下型?	
尾の様式	蝸牛型?		尾の様式	蝸牛型?	
年代推定	17世紀～18世紀		年代推定	17世紀～18世紀	

「小 型 狛 犬」

阿 形			咩 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H34×W22×T12		咩 形	H34×L22×T12	
台 座	L17×W12×T*	欠 損	台 座	L17×W12×T*	欠 損
髪の様式	不 明		髪の様式	不 明	
尾の形式	不 明		尾の形式	不 明	
年代推定	近 世		年代推定	近 世	
その他	石質不明		その他	石質不明	

表 2c. 越前狛犬等の集計表（3）.

(H：高さ, W：横幅, T：厚さ, 台座 L：長さ, W：幅, T：厚さ, *：欠測)

6) 乙部町 八幡神社の「小型狛犬」

左 像			右 像		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
左 像	H36×W28×T14		右 像	H36×W28×T14	
台 座	L20×W14×T3		台 座	20×14×4.5	
髪の様式	不 明		髪の様式	不 明	
尾の様式	不 明		尾の様式	不 明	
年代推定	江戸時代		年代推定	江戸時代	
その他	石質不明		その他	石質不明	

7) 上ノ国町 上ノ國八幡宮の「越前狛犬」A, B

狛 犬 A

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H27×W20×T15		吽 形	H28×W19×T16	
台 座	*×*×*		台 座	*×*×T1.5	*未計測
髪の様式	巻毛・毛筋垂下型		髪の様式	巻毛・毛筋垂下型	
尾の形状	蓮華花卉型		尾の形状	蓮華花卉型	
年代推定	17世紀半～18世紀		年代推定	17世紀半～18世紀	

狛 犬 B

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H38×W26×T15		吽 形	H37×W25×T14	
台 座	L22×W13×T2		台 座	L23×W12×T2	
髪の様式	自由型		髪の様式	自由型	
尾の様式	三井分類にない		尾の様式	三井分類にない	
年代推定	19世紀半		年代推定	19世紀半	

表2d. 越前狛犬等の集計表(4).

(H:高さ, W:横幅, T:厚さ, 台座L:長さ, W:幅, T:厚さ, *:欠測)

8) 福島町 恵比須神社の「越前狛犬」

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H34.5×w*×T16.5		吽 形	H34.5×T未計測×W17	
台 座	L25×W14.5×T3		台 座	L25×W14×T3	
髪の様式	多段房型		髪の様式	多段房型	
尾の形状	3条その他型A		尾の形状	3条その他型A	
股 間	性器状の突起あり		股 間	性器状の突起なし	
年代推定	16世紀～17世紀		年代推定	16世紀～17世紀	

9) 福島町 八幡神社の「越前狛犬」

阿 形			吽 形		
項 目	計測値等	備 考	項 目	計測値等	備 考
阿 形	H42×W35×T15		吽 形	H41×W35×T16	
台 座	L40×W22×T4	補 修	台 座	L40×W29×T4	補 修
髪の様式	毛筋垂下型		髪の様式	毛筋垂下型	
尾の様式	3条先端内巻型B		尾の様式	3条先端内巻型B	
頭頂部	角あり (3cm×6cm)		頭頂部	角あり (2.5cm×5cm)	
年代推定	16世紀～17世紀初		年代推定	16世紀～17世紀初	



1. 阿形正面



2. 阿形側面



3. 阿形背面・尾



4. 吽形正面



5. 吽形側面



6. 吽形背面・尾

写真1. 石狩市 浜益神社の越前狛犬.



1. 阿形吽形正面



2. 阿形吽形側面

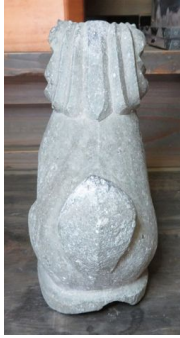
写真2a. 石狩市 石狩弁天社の越前狛犬（1）.



3. 阿形正面



4. 阿形側面



5. 阿形背面・尾



6. 阿形正面



7. 阿形側面



8. 阿形背面・尾



9. 阿形底面 右前側



10. 墨による瞳の描き入れ



11. 墨書 阿形阿形とも右から「庄内酒田柏屋」

写真2b. 石狩市 石狩弁天社の越前狛犬(2).



1. 阿形側面 尾と耳



2. 阿形背面 髪が背中まで



3. 阿形背面 尾



4. 吽形側面



5. 吽形背面 尾

写真3. 泊村 泊稲荷神社の笏谷石製狛犬.



1. 阿形正面



2. 阿形側面



3. 阿形背面



4. 阿形 尾部



5. 吽形正面



6. 吽形側面

写真4. 寿都町 稲荷神社の笏谷石製狛犬.



1. 阿形側面



2. 阿形髪型



3. 阿形背面
小型狛犬背面



4. 阿形尾部



5. 阿形側小型狛犬



6. 阿形側面



7. 阿形側面小型狛犬背面



8. 阿形側小型狛犬側面

写真5. 島牧村 蔵島神社の越前狛犬・小型狛犬.



1. 右像正面



2. 右像側面



3. 右像背面



4. 右像台座底面 左臀部



5. 左像（阿形？）
正面



6. 左像側面



7. 左像背面

写真6. 乙部町 八幡神社の小型狛犬.



1. 狛犬A 狛犬B 正面



2. 狛犬A 阿形吽形正面



3. 狛犬A 側面



4. 狛犬A 背面



5. 狛犬A 吽形前足刻字越前



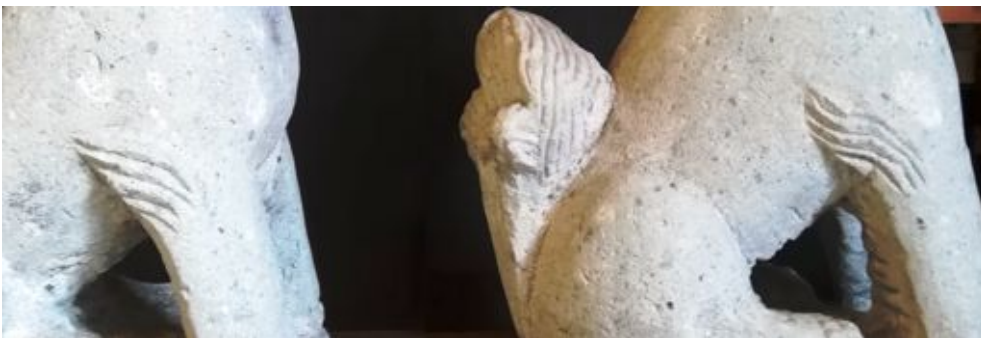
6. 狛犬B 正面



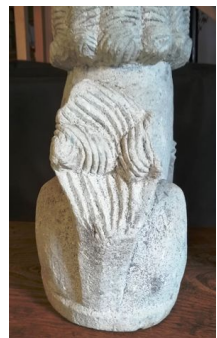
7. 狛犬B 側面



8. 狛犬B 背面



9. 狛犬B 左側面施毛



10. 狛犬B 阿形尾

写真7. 上ノ国町 上ノ國八幡宮の越前狛犬.



1. 阿形右側面



2. 阿形左側面



3. 阿形背面と尾



4. 阿形性器？



5. 吽形正面



6. 吽形側面と髪型



7. 吽形背面と尾

写真8. 福島町 恵比須神社の越前狛犬.



1. 阿形側面



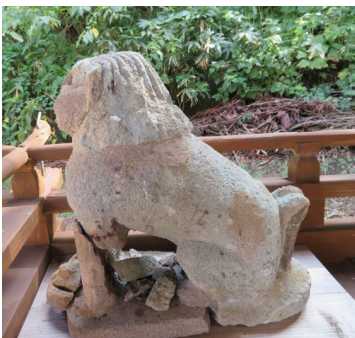
2. 阿形背面と尾



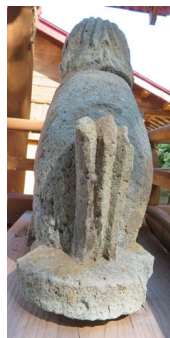
3. 阿形尾側面



4. 阿形頭部 角



5. 吽形側面



6. 吽形背面・尾



7. 吽形頭部 角

写真9. 福島町 八幡神社の越前狛犬.

